

令和3年度 家庭教育支援プログラム指導者研修⑤ 実施報告

実施日：令和3年8月4日（水）

5月から始まった「家庭教育支援プログラム指導者研修」が、全5回の日程を終了しました。最終回は、これまでの学びを生かしながら、ファシリテーターとしてプログラムを体験しました。

○ グループワーク

「家庭教育支援プログラムファシリテーター演習②」

〈午前の部〉

家庭教育支援プログラムのファシリテーターは、学びの場において参加者の活動を支援し、進行の舵取りをする役割を担い、参加者に寄り添い、気持ちや言葉を引き出したり、受け止めたりしながら話し合いを進めていくことが求められます。

午後の家庭教育支援プログラムの実践に向けて、新型コロナウイルスの感染対策のため一人一枚ホワイトボードを活用しながら意見交換し、各班ともプログラムの確認や修正、展開の練習に取り組みました。

〈午後の部〉

グループワークで作成したプログラム展開案をもとに、班員が役割分担をし、プログラムを実践しました。

ファシリテーターとしての言葉かけ、プログラムの進め方、ワークでの参加者との距離感など、各班ともこれまでの学びを存分に発揮していました。

プログラム実践後は、参加者役となった班はよかった点等をファシリテーター班に伝え、ファシリテーター班は自分たちの進行についてふりかえりを行いました。



☆ 受講者の声（アンケートから）

- ・ファシリテーターでありながら、「共に学んでいく参加者の一人」という姿勢が、結果的に参加者の心をほぐし、自身の気付きや学びにもつながると感じました。
- ・新型コロナウイルス感染防止対策が求められる中での学習プログラムの実践には、人との距離のとり方をはじめ、道具の準備、会話の制限など配慮が必要となることを改めて学ぶことができました。
- ・参加者の立場で相手の班の演習をみて、参考になる点がたくさんありました。
- ・ファシリテーターとして実際にやってみると、難しいこと、工夫すべきことなどがたくさん見えてきました。
- ・「コロナでできない」のではなく、その中で、どう工夫し実践していくかという方向へ切り替えていかなければならない時期なのかなと思います。
- ・今後、現場に伺って経験を積んでいきたいと思いました。
- ・警戒度が上がって制限が厳しくなった上で、工夫をしていただき、最後の研修を開催していただきありがとうございました。



研修内容の詳細に関するお問い合わせは栃木県総合教育センター生涯学習部まで
TEL:028-665-7206 e-mail:skc-syougai@pref.tochigi.lg.jp